

市民と議会

つながる

KPKAとリトルシスターズ

議会だより編集会議



恵泉女学園大学の平和紙芝居サークルKPKA

パルテノン多摩や多摩市立中央図書館などを活動場所に、「平和の語り部になろう!」というスローガンのもと、紙芝居を使った啓発活動をされています。また、令和4(2022)年から市内小中学校に出向いた平和授業を実施するなど、各地のイベントにも活動を広げています。

多摩市子ども被爆地派遣事業に参加したOGがKPKAリトルシスターズとして参加。小学6年生、中高生、社会人、留学生なども加わり、総勢20人以上の地域サークルへと発展しています。

多摩市では、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝える事業として「子ども被爆地派遣事業」(以下、派遣事業)を2013年度から開始し、子どもたちが広島・長崎派遣を通して学び考えた平和への想いを多摩市子ども被爆地派遣成果報告会や多摩市平和展の場などで市民に伝えています。今回は、派遣事業に同行した恵泉女学園大学の平和紙芝居サークルKPKA(以下、KPKA)と、現在そのサークル活動に参加している、かつての派遣事業参加者(KPKAリトルシスターズ、以下、リトル)のみなさんにお話を伺いました。

◇みなさんは、小・中学生の時に「子ども被爆地派遣事業」に参加され、その後、OB・OGとしても派遣事業に参加。そして今「KPKA」の活動にも参加されています。今の心境を伺います。

リトル：とても充実しています。私は小さい頃から「戦争」「平和」に関心がありましたが、友だちには言い出せずにいました。派遣事業やKPKAの活動では、戦争について話し合うことができ、とてもうれしです。

◇派遣事業に参加して感じたことはありますか。

リトル：私は令和3(2021)年度、小学校6年生の時に任命されましたが、コロナで広島には行けず、中学1年生の時に再チャレンジしました。1回目と2回目の違いは「着眼点」でした。1回目は調べ学習だったため「原子爆弾、戦争の概要、核兵器廃絶」について、2回目は実際に現地に行った時に出合った「本川小学校の三八式歩兵銃から自分が感じ考えたこと」についてでしたが、自分でも驚くほど印象が変わり、より自分の考えが深まりました。経験することで、現地に行く大切さを感じました。

そして令和5(2023)年度、中学2年生でKPKAとして「紙芝居」を使った活動をしてみて、派遣員のときのように「自分が考えたこと、感じたことを伝える方法」があることを



知り、だんだん「戦争の事実」だけでなく「戦争・平和の伝え方」についてよく考えるようになりました。

◇「平和の語り部」となるきっかけを教えてください。

KPKA：紙芝居は明るく楽しいものと思っていましたので、「二度と」という紙芝居の内容があまりに重く、最初は読むのを避けたいと思いました。しかし、子ども被爆地派遣事業に同行し、実際に広島に行ってみたら、「これは逃げてはいけない」「これは私たちにバトンが渡されているのだ」と身にしみて感じました。『二度と』という作品を泣きながら読んで、「これはやるしかない。進むしかない」「平和の語り部になろう」という気持ちでサークル活動を続けています。

◇これまでの経験なども踏まえて、今後、この派遣事業の展開として要望することがありましたら、お話しください。

KPKA：平和を考えるきっかけになったのは、高校生の時にナチス・ドイツの強制収容所に行ったことです。被爆地以外にも戦争を感じることでできるさまざまな場所に行って、平和や戦争について考える機会があるとよいと思います。

リトル：子ども被爆地派遣事業の継続と、平和事業の新しい企画を要望します。

※紙芝居『二度と』(童心社刊、松井エイコ作)

戦争で原爆が投下された広島や長崎の悲惨さを描き「もう二度と原爆を落とさないで」と訴えるお話です。



多摩市議会議長
三階 道雄

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)への議会の対応

宗教法人世界平和統一家庭連合(以下、旧統一教会)は「多摩市内における新たな施設建設を当面の間見合わせる」方針を示しましたが、多摩市議会として建設計画を「見合わせる」ではなく「白紙撤回」することを求める申し入れを、令和5年12月22日、第4回定例会最終日に全会一致で可決しました。

令和5年10月6日に多摩市議会が行った「宗

教法人法に基づく解散命令がされないことが確定するまでの間、新たな造成や建物の建設を行わないよう求める」申し入れに対し、旧統一教会から上記内容の回答を受けたため、改めて申し入れを行うものです。

なお、申し入れ書については、12月25日付で旧統一教会本部に郵送しました。